



岡山西

水稻 2015年7月 第32号

営農情報 ジャンボタニシ対策

近年県南の圃場にてジャンボタニシ（スクミリンゴガイ）が増えております。ジャンボタニシは田植えした直後の柔らかいイネを食害してしまいます。田植え後 20 日以降はイネの茎が硬くなり、食害は心配ありません。したがって田植え後 20 日の間に発生がみられたら、下記の防除を参考に対策しましょう。

1. 侵入対策

ジャンボタニシは用水路から水の流れにのって侵入して来たり、取水口（給水口）から足し水をして排水口から水が出ていると侵入してきますので、取水口と排水口に金網等設置し侵入を妨害する方法があります。



水の中のジャンボタニシ

2. 水管理

ジャンボタニシは水深 2 cm以下では活動できないので、田植え後すぐにジャンボタニシを発見したら浅水管理をすれば食害を防止できます。（ジャンボタニシは産卵時は水から出るが、それ以外は水からでません。）

3. 農薬による防除

「スクミンベイト 3」

規格：2 キロ

使用時期：発生時

使用回数：なし

10a 当り：2～4 キロ

成分：磷酸第二鉄水和物・・・3.0%

当用価格：2,700 円（税込）



ジャンボタニシの卵

「スクミンベイト 3」は、自然にも存在する成分 磷酸第二鉄水和物なので、使用時期や回数の制限がなく使い勝手がよくて自然にもやさしい剤なのでオススメです。

☆上手な使い方☆

普通の農薬は圃場全体に散布しないといけません。ジャンボタニシの場合は、田んぼの数カ所に野菜クズ等を置いとけばそこに集まるので、集まったところへ上記農薬を散布すれば少ない量で多くのジャンボタニシを駆除することができます。

4. 稲刈り後の対策

ジャンボタニシは田んぼの土の中で越冬します。ジャンボタニシは表層 2～3 cmの場所に潜っていますので、表面を浅くトラクターでひいてジャンボタニシを粉碎し、その後普通に耕耘し駆除する方法もあります。

役立つ営農情報を皆様に！！

作成者：営農部営農企画課 守屋 雄太